



琳派を自由に解釈したデザインが並ぶ会場(京都市中京区・京都万華鏡ミュージアム姉小路館ギャラリー)

崩した風神雷神、宇宙の鶴…

琳派風遊ぶデザイン

中京で作品展

琳派の画風を取り入れた新しいデザインを紹介する「琳派に遊ぶ展」が、京都市中京区姉小路通東洞院東入ルの京都万華鏡ミュージアム姉小路館ギャラリーで開かれている。京都のデザイナーたちが琳派の「美意識の系譜」を自由に解釈し、長い布に描き出した作品が並ぶ。

京都デザイン協会が

企画した。会員のグラフィックデザイナーや染色家、建築家たちが「自由で新しくウィットを感じられる」作品をテーマに、縦2.5m50センチ、横45センチの生地に思いの絵柄を印刷した。28点を展示している。

俵屋宗達「風神雷神図屏風」を大胆に崩して部分柄として使ったものや、同じく宗達の

「白象図」の象を赤や青に染めた作品が目を引き。また、尾形光琳「燕子花図屏風」を基に1本の力キツバタを描いた作品、宇宙空間を羽ばたく鶴の群れや月の満ち欠けの様子をあしらった異色作品もある。

3月1日まで、午前10時〜午後6時(最終日は午後4時)。無料。

(樺山聡)